

校報 あずまね

文責：紫波町立紫波第三中学校 校長 角谷 隆章

2026年2月27日（金）

～伝え合い 響き合い 高め合う～

紫波町立紫波第三中学校 学校だより No.13

【2月は逃げる 3月は去る】

明日で2月が終わります。よく“2月は逃げる”と言われますが、他の月より2、3日少ないこともあり、本当にあっという間だったと感じる方が少なからずいるのではないのでしょうか。2月が終われば3月です。“3月は去る”と言われますが、節目の行事やその準備があることから、もしかしたら、2月よりもさらに早く感じるかもしれません。

まずは、差し迫った来月4日、5日に行われる公立高校の入試に挑む3年生のみなさん。心から応援しています。体調を万全にして、最後まで全力で頑張ってきて下さい。

その後の卒業式と修了式は全校の生徒にとって、大きな節目になります。いい締めくくりをしたいものですね。各ご家庭におかれましても、健康管理をしっかりと行い万全な状態で臨めるように励ましの声かけや温かい見守りをお願いします。

【キャップハンディ体験学習】

2月5日（月）、1学年の総合的な学習の時間の一環として、紫波町社会福祉協議会から3人の講師をお招きして、キャップハンディ体験（高齢者疑似体験）と社会福祉協議会に関する講話をしていただきました。終了後、講師の方々から話を伺いましたが、今このような体験学習をしている学校はあまりないとのこと。とても貴重な体験をしたこととなります。誰にとっても安全で住みよい社会をつくるにはどうすべきか。この学習を一つのきっかけとして、深く考えて、できることに取り組んでほしい。そう願っています。



【授業参観】

2月13日（金）、1、2年生を対象にした授業参観が行われました。1年生は教科の授業と懇談会、2年生は進路学習と修学旅行説明会でしたが、お忙しい中、たくさんの保護者の方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

【令和7年度紫波町児童生徒顕彰授与式】

標記授与式が2月19日(木)、オガール内情報交流館2階大スタジオで行われました。本校からは、3人が臨み、鎌田新町長から賞状と、メダル、記念品等を授与されました。おめでとうございます。この受賞を励みにして、今後益々活躍することを願っています。受賞者と成績は次の通りです。

高橋 咲来 さん(3年) 第52回東北総合スポーツ大会スポーツクライミング競技

少年女子ボルダー第2位 少年女子リード第2位

藤原 旭 さん(2年) 第71回全日本中学校通信陸上競技大会

岩手県大会 男子中学校共通棒高跳 第1位

2025岩手県U16陸上競技大会 男子棒高跳 第1位

飯塚 蘭 さん(3年・紫波銃剣道クラブ A のメンバー)

令和7年度全日本少年少女武道(銃剣道)錬成大会 団体中学生の部 敢闘賞(第3位)



【まもなく東日本大震災から15年】

一流の料理人は道具を大事にする。常に包丁を研ぎ、鍋はきれいに磨いておく。そして、仕事を終えたときには“今日もよく働いてくれたな”とねぎらいながら、丁寧に道具を仕舞うのである。いい料理を作りたいと心から思っていれば、おのずとそのような感謝や慈しみの気持ちが起こるのであろう。

それはスポーツの選手でも同じこと。一流のゴルファーは、いわば自分の分身のようにクラブを大切にするし、野球の選手はバットやグラブを大事にする。だからこそ道具が喜んで働いてくれるのである。

われわれは仕事で、家庭で、紙やペン、机や椅子、自分達の使う物を、どれだけ大事にしているだろうか。

物にも心があると考えたい。心を込めて大切に扱えば、必ず物は自分の持ち味を存分に発揮して応えてくれるからである。物を泣かせていないか。“もっと大事にしてくれ”“もっと活かして使ってくれ”と悲鳴をあげていないか。物の気持ちになって、今一度まわりを見つめ直してみたい。物の声に静かに耳を傾けてみたい。

少し古いですが、「平成16年 PHP 11月号」から抜粋しました。さて、あと10日余りで3月11日がやってきます。今年は東日本大震災から15年目にあたります。「形見」という言葉。もちろんご存知だと思います。「記念に残された品物。特に死んだ人や分かれた人の遺品」と辞書には載っています。その物をみると、その人が生きていた時のことを思い出すという品物なので、あの大震災で大切な人を失った人々の中には、形見を大事にしている人がたくさんいると思います。私は「物」には命が宿っている。そう思っていますが、これもその証になるのではないのでしょうか。

「命」は必ず消えます。人だっていつかは亡くなります。だから、「物」を大事に使っていて、割れたり、壊れたりするのは仕方のないことなのでしょう。でも、それまでは、大事に、そして、丁寧に使う。

令和7年度がもうすぐ終わります。生徒はもちろん、我々大人もこの1年、自分で使ってきた筆記用具やノート、手帳、書籍類、かばんや茶碗などなど、どんな気持ちでどう扱ってきたのかを振り返ってみてもいいのではないのでしょうか。震災の犠牲者に想いを馳せながら……。